

計画の達成状況の評価

令和3年（2021年）10月22日

猪名川町

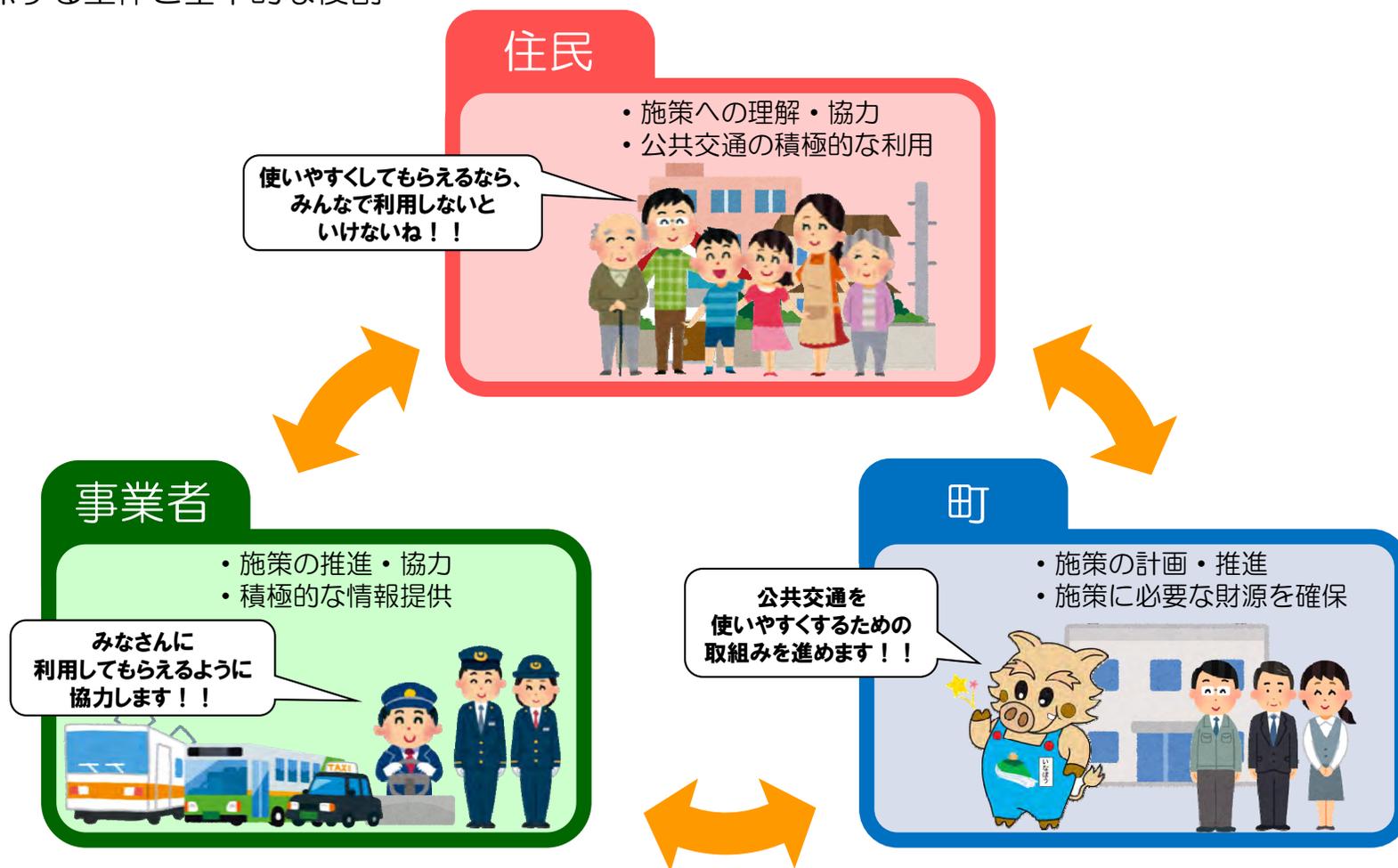


猪名川町マスコットキャラクター
「いなぼう」

1. 関係する主体と基本的な役割

- 本計画を進めるにあたっては、交通政策基本法の第6条（連携等による施策の推進）にのっとり、「住民」、「事業者」、「町」それぞれが、果たすべき役割を十分に理解・認識し、協働・連携により、取り組む必要がある。
- それぞれの役割分担を明確にし、将来にわたって持続できる公共交通の実現に向けて、新たな交通体系を構築していくものとする。

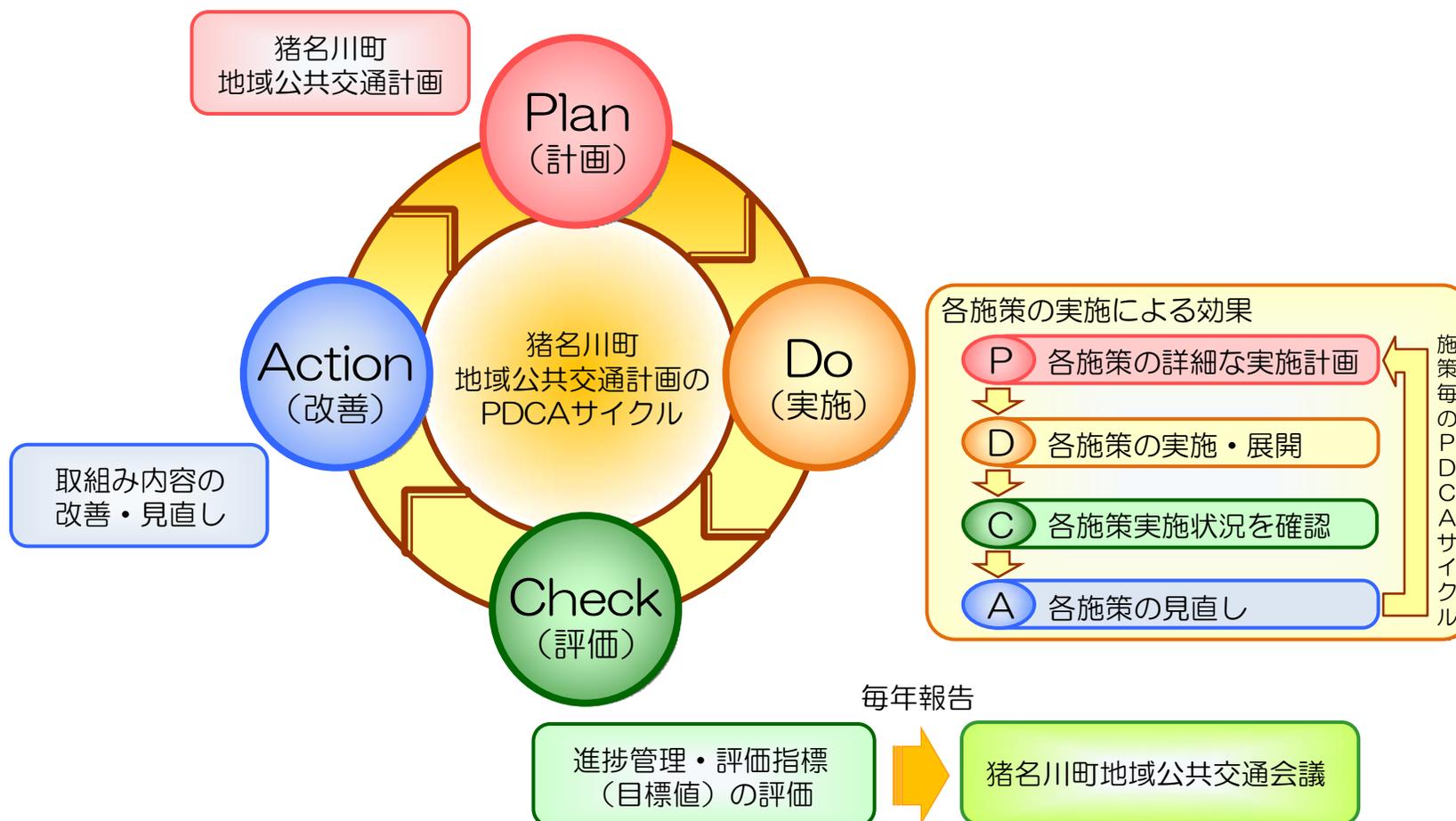
■ 関係する主体と基本的な役割



2. 計画の進行管理

- 計画の推進にあたっては、PDCAサイクル（立案（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action））に基づいて、地域公共交通会議において、計画の進捗確認と効果の検証・評価を行うものとする。
- 猪名川町総合計画や猪名川町都市計画マスタープラン等の上位計画・関連計画の改定、国や兵庫県における関連する法令・計画の見直し、社会情勢の変化などにも配慮して、適宜見直しを行うものとする。

■ PDCAサイクルによる施策の推進・評価



3. 評価指標と目標値の設定

■ 指標・目標値の必要性

- 目標の達成に向けて実施する施策について、施策実施による効果が発現しているか確認することで、状況に応じたスケジュールや施策内容等の見直しができる。
- 住民に対して、計画の取組み状況を伝えるとともに、利用者の立場として積極的に公共交通を利用する意識を醸成する。
- 事業実施主体にとって、計画の中における施策の効果を確認し、さらなる施策実施に向けたモチベーション（動機づけ）とする。
- 「指標の明示化」（施策・事業の実施により発生する効果・成果を表すアウトカム指標など）が求められるため、可能な限り定量的で分かりやすい指標を設定する。

3. 評価指標と目標値の設定

■ 指標・目標値の設定

○ 本計画における基本方針及び計画目標に係る評価指標と目標値の設定を以下のように設定する。

● 基本方針

元気に安心して暮らせる魅力あるまちづくりを支える持続可能な公共交通を構築

◆ 公共交通利用者数

現在値 : 19,729 人/日
(令和元年(2019年))



目標値 : 17,311 人/日
(令和6年(2024年))

暫定値

- 各交通手段が適切に機能分担されたネットワークの構築とともに、地域住民の公共交通に対する意識醸成による利用機会の増加により、公共交通の利用者が増加するものと期待できる。公共交通に対する意識醸成による利用機会の増加状況を測る指標として、公共交通利用者数（鉄道・路線バス・コミュニティバス「ふれあいバス」・チョイソコいながわ）を設定する。
- 目標値は、人口減少による生産年齢人口の減少及び少子高齢化の進展が推計されており、生産年齢人口及び学生世代の減少に伴い、町内の公共交通利用者の減少が想定される。本計画の施策推進により、将来推計人口による人口減少率の1/2に抑えるものとして、その減少率を乗じた公共交通利用者鉄道・路線バス・コミュニティバス「ふれあいバス」・チョイソコいながわ）を目標値として設定する。

3. 評価指標と目標値の設定

● 計画目標①：まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成

◆ 広域基幹交通及び町内基幹交通の利用者数

現在値

- ・ 鉄道（能勢電鉄日生中央駅乗降車数）
10,623人/日（令和元年（2019年））
- ・ 路線バス（阪急バス町内停留所乗降車数）
8,864人/日（令和元年（2019年））

目標値

- ・ 鉄道
9,321人/日（令和6年（2024年））
- ・ 路線バス
7,777人/日（令和6年（2024年））

暫定値

- ・ 各交通手段が適切に機能分担された持続可能な公共交通ネットワークやサービス水準等により、町内の公共交通における利便性が確保され、住民等による利用状況を図る指標として、広域基幹交通及び町内基幹交通（鉄道及び路線バス）の利用者数を設定する。
- ・ 目標値は、人口減少による生産年齢人口の減少及び少子高齢化の進展が推計されており、生産年齢人口及び学生世代の減少に伴い、町内の広域基幹交通及び町内基幹交通の利用者の減少が想定される。本計画の施策推進により、将来推計人口による人口減少率の1/2に抑えるものとして、その減少率を乗じた公共交通利用者（広域基幹交通及び町内基幹交通）を目標値として設定する。

3. 評価指標と目標値の設定

- 計画目標①：まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成

◆ 財政投入を行っている公共交通事業の収支率

暫定値

現在値

- ・ コミュニティバス「ふれあいバス」
1.6%（令和2年度（2020年度））
- ・ チョイソコいながわ
16.3%（令和3年（2021年）9月）

目標値

- ・ コミュニティバス「ふれあいバス」
25%（令和7年度（2025年度））
- ・ チョイソコいながわ
25%（令和8年度（2026年度））

- ・ 地域特性に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築による効果を測る指標として、財政投入を行っている公共交通事業の収支率を設定する。持続可能な公共交通ネットワークの構築により、町による一定の負担増加が見込まれる中、経済性・効率性を考慮した運行の実現を目標にコミュニティバス「ふれあいバス」及びチョイソコいながわの収支率を設定する。
- ・ 目標値は、コミュニティバス「ふれあいバス」及びチョイソコいながわは、路線バスが乗り入れ困難な地域や事業性の厳しい低需要の地域を主に担うことを踏まえ、利用促進をはじめ、国等による補助金の活用等による町による財政負担軽減を図る等による収支改善を図るものとして、兵庫県内のコミュニティバス収支率実績値（令和2年度（2020年度））である25%を設定する。

3. 評価指標と目標値の設定

● 計画目標②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進

◆ 利用環境づくりの取組み実施項目数

現在値：4件
(令和3年度(2021年度))



目標値：8件
(令和8年(2026年)累積値)

暫定値

- わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境を構築するため、快適な利用環境づくりやわかりやすい公共交通情報の提供・発信及び公共交通サービス提供の拡充等の取組み状況を測る指標として、利用環境づくりの取組み実施項目数を設定する。
- 利用環境づくりの取組みは、令和3年度(2021年度)では4件の実績がある。目標値は、本計画の施策推進により、利用環境づくりの取組みを実施するものとし、現在値の2倍の実績数を設定する。

■ 利用環境づくりの取組み実施状況(令和3年時点)

取組み実施項目	概要
hanica グランドパス65の購入費助成(高齢者外出支援事業)	・ 町内に居住している高齢者又は運転免許証の自主返納等をしようとする高齢者に対し、交通費の一部を助成することにより、高齢者の外出を支援するとともに、社会参加の促進並びに高齢者による交通事故の抑制を図ることを目的として、「高齢者外出支援事業」を実施しており、令和3年4月から70歳以上で1年以上猪名川町に住んでいる方を対象に、hanica グランドパス65の購入費助成を開始
バスロケーションシステムを活用したバス接近情報の提供	・ バスロケーションサービスを平成28年(2016年)3月から開始し、平成30年(2018年)3月から猪名川町を含む全路線でのサービスの利用が可能
路線バスのガイドブック「阪急バスのノリセツ」の作成・配布	・ 阪急バスは、阪急バスの基本の乗り方、阪急バス・阪神バス共通ICカード乗車券「hanica」等のお得な情報、取組みや乗車マナー等をまとめた「阪急バスのノリセツ」を作成。猪名川町は、転入者を対象に「阪急バスのノリセツ」を配布
チョイソコいながわの運行	・ 令和2年(2020年)5月から運行開始し、阿古谷・松尾台地区、大島地区の2つのエリアで運行 ・ 阿古谷・松尾台地区では「日生中央駅」、大島地区では「阪急バス杉生バス停」までの移動をサポートし、交通不便地の解消およびバスや鉄道の利用を促進

3. 評価指標と目標値の設定

● 計画目標②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進

◆ 高齢者の運転免許証自主返納者数

現在値：363人/年
(令和2年(2020年))

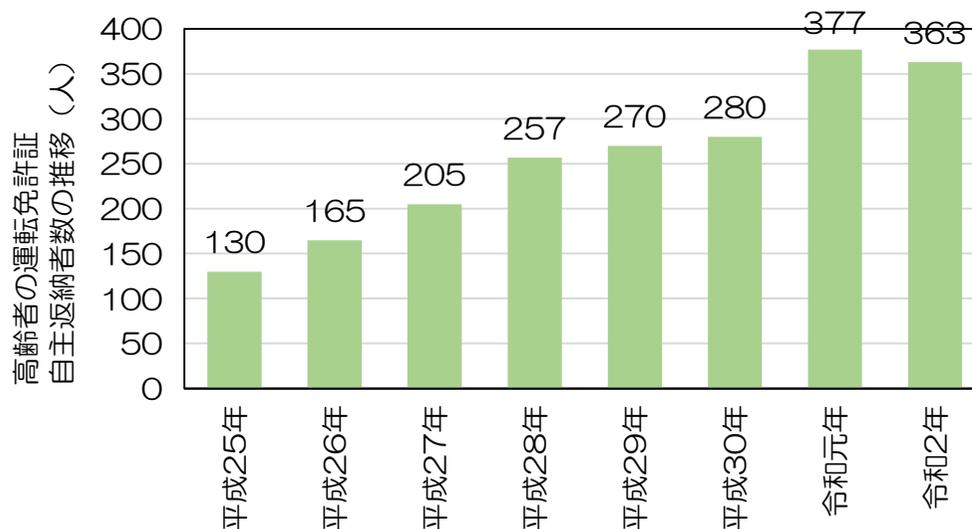


目標値：500人/年
(令和7年(2025年))

暫定値

- 高齢者に選択してもらう移動手段を提供するとともに、地域や関係機関と連携して公共交通に対する意識醸成を図る取組み等を実施することにより、高齢運転者が安心して運転免許証を自主返納できる交通環境が整う状況を図る指標として、高齢者の運転免許証自主返納者数を設定する。
- 目標値は、本計画の施策推進により、増加傾向にある高齢ドライバーの運転免許証自主返納を促進することを目指して設定する。また、高齢者の運転免許証自主返納者数は、川西警察署管内（猪名川町及び川西市の合計）における実績とする。

■ 高齢者の運転免許証自主返納者数の推移



3. 評価指標と目標値の設定

- 計画目標②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進

◆路線バスにおける定期券の保有者数

現在値：1,577人
(令和3年(2021年)7月)



目標値：1,455人
(令和8年(2026年))

暫定値

- 多様な世代の方が通勤・通学をはじめ、日常生活での身近な移動手段として、公共交通を選択できるためのサービスを提供することで、現在より多くの方に路線バスを利用してもらうこととする。多様な世代の方の路線バスの利用状況を測る指標として、町内における路線バスの通勤定期券、通学定期券及び高齢者向け定期券の保有者数を設定する。
- 目標値は、人口減少による生産年齢人口の減少及び少子高齢化の進展が推計されており、生産年齢人口及び学生世代の減少に伴い、町内の公共交通利用者の減少が想定される。本計画の施策推進により、将来推計人口による人口減少率の1/2に抑えるものとして、その減少率を乗じた路線バスにおける定期券の保有者数を目標値として設定する。

■路線バスにおける定期券の保有者数（令和3年（2021年）7月時点）

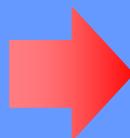
定期券種別	保有者数
通勤定期券	679人
通学定期券	21人
hanica阪急スクールパス	414人
hanicaはんきゅうランドパス65	463人
合計	1,577人

3. 評価指標と目標値の設定

- 計画目標③：住民・事業者・行政等の多様な関係者との連携による持続可能な地域公共交通の実現

◆公共交通利用促進に係る取組み実績数

現在値：3件
(令和3年度(2021年度))



目標値：6件
(令和8年(2026年)累積値)

暫定値

- ・ 地域公共交通にとって大切なことは、住民・事業者・行政が公共交通に対する意識醸成を図ることである。過度な自動車利用から、適度な自動車利用へと無理のない範囲での転換を促し、公共交通を支え・育て・守る意識を啓発等、公共交通の利用促進を目的とした取組み状況を測る指標として、公共交通利用促進に係る取組み実績を設定する。
- ・ 公共交通利用促進に係る取組みは、令和3年度(2021年度)では3件の実績がある。目標値は、本計画の施策推進により、公共交通利用促進に係る取組みを実施するものとし、現在値の2倍の実績数を設定する。

■公共交通利用促進に係る取組み状況(令和3年(2021年)時点)

取組み実施項目	概要
公共交通利用促進広報誌の発行(2回)	<ul style="list-style-type: none">・ 猪名川町における公共交通の厳しい現状・問題点や、交通事業者・猪名川町による取組みの状況を伝え、かつ公共交通利用促進を促す広報資料を作成・配布することで、住民の公共交通に対する意識や考え方の醸成を図ることを目的としたもの・ 猪名川町地域公共交通計画を来年度に策定することに合わせて、猪名川町の公共交通の現状・問題点や、交通事業者・猪名川町による公共交通に対する取組みの状況を伝え、かつ公共交通の利用を促進する広報資料として、第1号を令和3年(2021年)10月に配布、第2号を令和4年3~4月に配布予定
バス・タクシー乗務員募集案内	<ul style="list-style-type: none">・ 上記の公共交通利用促進広報誌(第1号)において、「地域の公共交通を担うバス・タクシー乗務員を募集」項目を設定・ 公共交通利用促進広報誌の紙面から、バス・タクシー事業者ホームページの乗務員募集ページにアクセス可能なQRコードを記載